

千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第28週 (7/7-7/13)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第28週	第27週	第26週	第25週
小児科	16	16	16	16
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	26	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段: 報告患者数、下段: 定点当たりの報告数

定点当たりの報告数: 報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	7/7-7/13 第28週	6/30-7/6 第27週	6/23-6/29 第26週	6/16-6/22 第25週
小児科	RSウイルス感染症		5 0.31	0 0.00	1 0.06	2 0.13
	咽頭結膜熱		2 0.13	7 0.44	3 0.19	3 0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	28 1.75	59 3.69	43 2.69	39 2.44
	感染性胃腸炎	↑	115 7.19	97 6.06	90 5.63	114 7.13
	水痘		4 0.25	10 0.63	7 0.44	12 0.75
	手足口病	↑	21 1.31	6 0.38	6 0.38	5 0.31
	伝染性紅斑	★★★↑	22 1.38	17 1.06	22 1.38	25 1.56
	突発性発しん		14 0.88	3 0.19	12 0.75	4 0.25
	ヘルパンギーナ		12 0.75	7 0.44	9 0.56	1 0.06
	流行性耳下腺炎		0 0.00	2 0.13	4 0.25	1 0.06
A R I	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.08	2 0.08	2 0.08	2 0.08
	新型コロナウイルス感染症	↑	46 1.77	33 1.27	26 1.00	25 0.96
	急性呼吸器感染症	↓	1,372 52.77	1,568 60.31	1,441 55.42	1,404 54.00
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	↑	13 2.60	9 1.80	10 2.00	3 0.60
基 幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↓	1 1.00	3 3.00	0 0.00	1 1.00

※「発生動向」欄のマークについて

< 流行状況 >

★★: 「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★: 「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

< 増減 >: マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓: 「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 62 件

感染症		性別	年齢層	感染症	性別	年齢層
結核	患者	男	20歳代	百日咳:55件	男女	10歳未満 10
	無症状病原体保有者	男	50歳代		男女	10歳代 29
	患者	男	70歳代		男	20歳代 3
	患者	男	90歳代		男女	40歳代 6
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	女	60歳代		男女	50歳代 3
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)		男	40歳代		女	60歳代 1
侵襲性肺炎球菌感染症		男	40歳代		男女	70歳代 3

結核4件(77)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(3)、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)1件(3)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(14)、百日咳55件(399)の発生届があった。
※ ()内は2025年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数 第28週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.75となった。過去5年の同時期と比べやや多い。年齢階級別の報告数は4歳が最多。

<感染性胃腸炎>

前週より増加し7.19となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<手足口病>

前週より増加し1.31となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<伝染性紅斑>

前週より増加し1.38となった。第24週に流行発生警報開始基準値(2.0)を下回ったが、流行発生警報終息基準値(1.0)を上回ったままなので警報は継続している。過去5年の同時期と比べ最多のまま。年齢階級別の報告数は5歳が最多。

<新型コロナウイルス感染症>

前週より増加し1.77となった。年代別の報告数は20-29歳が最多。

<急性呼吸器感染症>(第15週から調査開始)

前週より減少し52.77となった。年齢群別の報告数は1-4歳が最多。

<流行性角結膜炎>

前週より増加し2.60となり、過去5年の報告数と比べて最多となった。年代別の報告数は0-9歳が最も多く、6-11か月及び2歳の報告が多かった。

<新型コロナウイルス感染症(入院)>

前週より減少し1.00となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

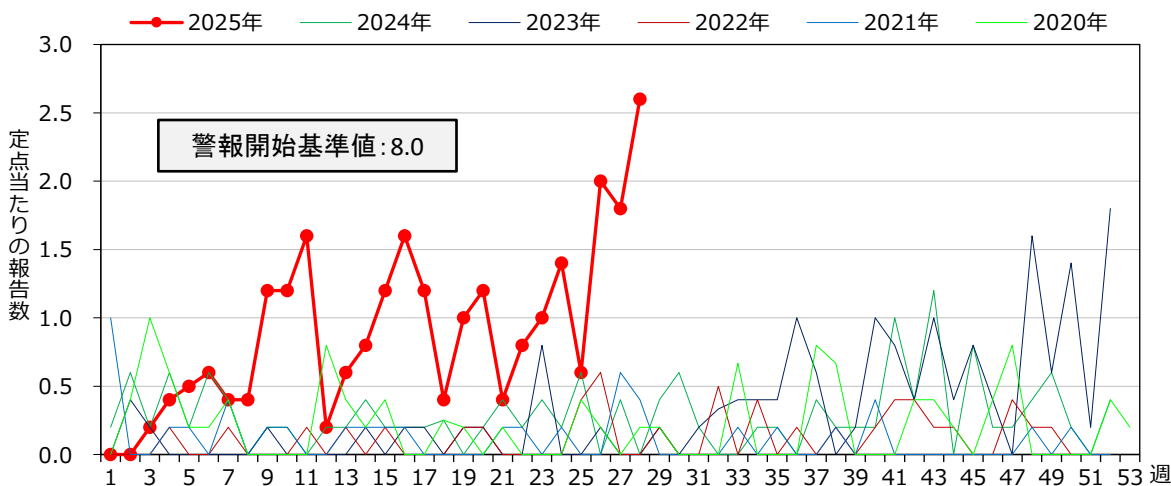
■ トピック ■

<流行性角結膜炎>

2025年の全国の定点当たりの報告数は、第2週以降過去5年の同時期と比べるとほぼ最多の状態に推移しており、第27週時点は0.90となっています。都道府県別では、愛媛県(4.13)が最も多く、次いで茨城県(3.59)、沖縄県(3.22)の順となっています。千葉県は1.91で全国レベルと比べると多くなっています。

千葉市では、第8週以降、過去5年の同時期と比べほぼ最多の状態に推移しています。第28週は前週より増加し2.60となり、第26週以降は過去5年と比べ最も報告数の多かった2023年第52週(1.80)を超えて推移しています(図1)。

図1 年別・定点当たりの報告数



第1週から第28週までの定点医療機関からの報告数は、男性73件(57.9%)、女性53件(42.1%)の合計126件であり、年代別では0-9歳(45件、35.7%)が最も多く、次いで30-39歳(30件、23.8%)、40-49歳(20件、15.9%)、の順となっています。0-9歳(45件)のうち、5歳と7歳(7件)が最も多くなっています。(図2、図3)。

2020年から2025年第28週までの報告数に占める年代別の割合では、2020年から2023年に比べ、2024年以降は、0-9歳の割合が増加しています(図4)。

図2 患者報告数 (2025年第1週-第28週 n=126)

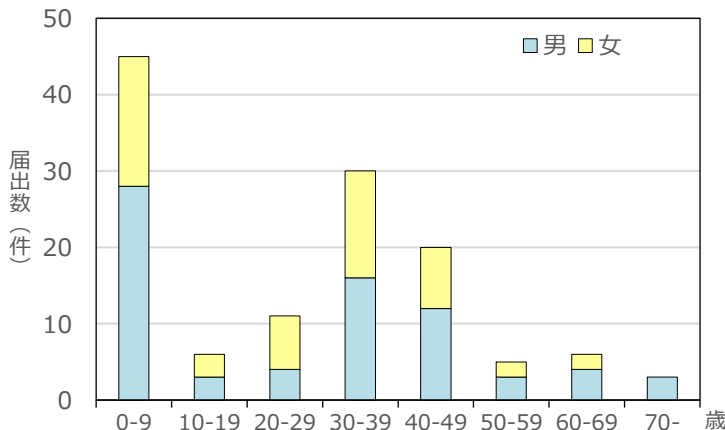


図3 患者報告数

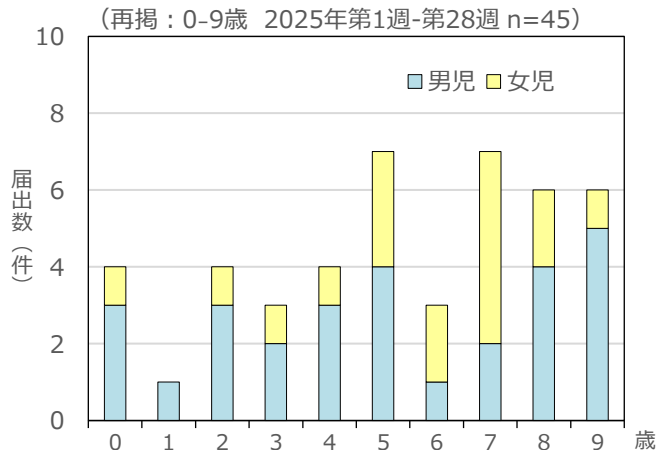
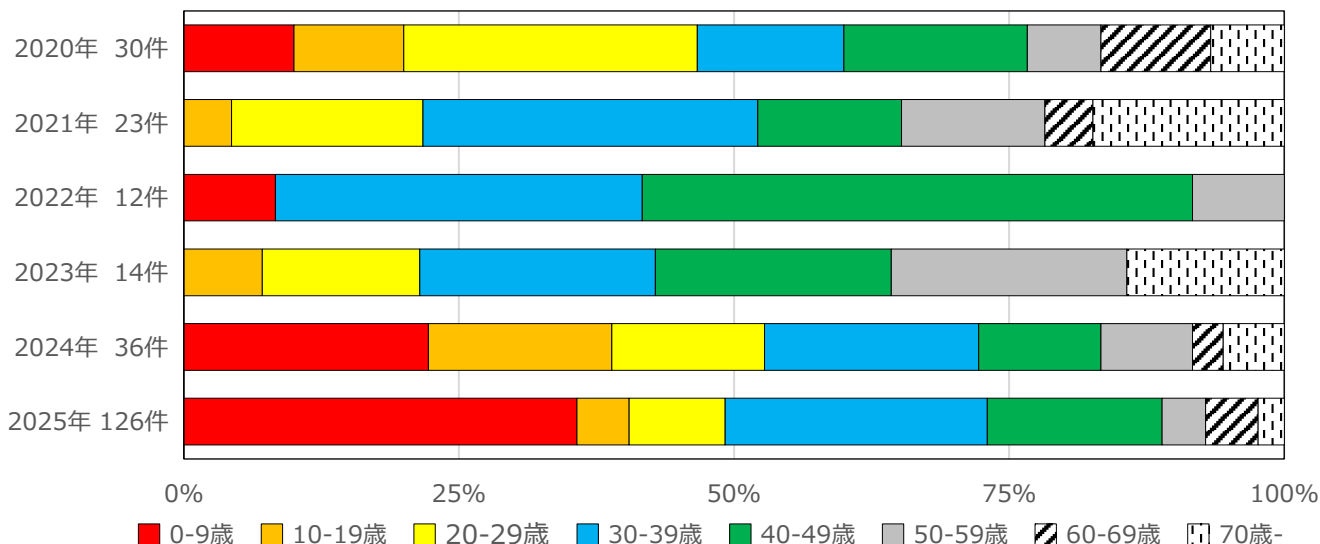


図4 報告数に占める年代別分布 (2020年-2025年第1週-第28週)



流行性角結膜炎は、アデノウイルスD種の8、37、53、54、56、64/19a型などによる眼感染症です。患者は0～4歳を中心とする小児と、30代を中心とする成人の幅広い年齢層にみられます。

約1～2週間の潜伏期の後、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、混濁は数年に及ぶことがあります。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすことがあるので注意する必要があります。通常、発病後2～3週間程度で治癒します。感染性が大変強く、家庭内感染や院内感染を起こすことが多くなっています。

患者との接触やウイルスによって汚染されたティッシュペーパー、タオル、洗面器などに触れるなどして感染(接触感染)します。感染を防ぐために、こまめに手洗いと消毒を実施し、タオルや点眼液などの目に接触するものを共用しない、ドアノブや手すり、おもちゃなどをこまめに次亜塩素酸ナトリウム等で消毒することが効果的です(通常の消毒用アルコールは無効です)。

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

<参考>千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>